

11月～12月 (告知)のりた

時 開催時間 対 参加対象
所 開催場所 申 参加方法
￥ 参加費 持 持ち物
定 定員(選定方法)

11/16 土 むらさき麦の栄養と調理法を知ろう～洋風料理とお菓子～

愛知学泉短期大学・藤川まちづくり協議会と協働した企画。栄養を学びながら、むらさき麦100%のガレット(クレープ)や、ドリアなどを作ります。

時 10:00～13:00
所 むらさきかん調理室
￥ 300円 定 20名(先着順)
申 必要。直接または電話にて、むらさきかんへお申し込みください。

NEWS

まち育てスクール

11/23 土 歴史探訪！秋の山中城址を歩く

東部地域の魅力を見つけるまち歩き。県下最大級の山城跡と、歴史あふれる山中八幡宮を巡ります。城跡のある山頂からは、まちの様子を一望することができます。

時 8:45～13:00
所 山中城址、山中八幡宮周辺
￥ 300円 定 20名(先着順)
申 必要。直接または電話にて、むらさきかんへお申し込みください。



お問合せ	よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114	
なごみん	66-8251	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム	23-2888

まちのミカタ

Litaracy

2019.11 vol.100

11/30 土 やはぎ大楽～ものづくり講座～クリスマスリースの飾りつけ

手仕事などの職業体験も行う、社会福祉法人せきれい彩(さい)から講師を招き、クリスマスリースの飾りつけ体験講座を開講します。

時 14:00～16:00
所 やはぎかん 防災活動室
￥ 1,000円 定 15名(先着順)
申 必要。やはぎかんへお問い合わせください。

12/7 土 おかぶらinなごみん『ふるさとを語り継ぐ～岩津の昔と今、そして未来～』

『岩津風土記』や『岩津八景』の著者、兵藤進一氏を招き、岩津の地域づくりについての講演と意見交換を行います。

時 10:00～12:00
所 なごみん 3階ホールA
￥ 無料 定 100名(先着順)
申 不要。当日、直接お越しください。

11/3～日 QURUWA菜園inりぶら野菜づくり体験

QURUWA菜園inりぶら(P.7)では、毎週日曜日(冬期は隔週開催)にプランターでつくる野菜づくり体験を開催しています。11月～は野菜の育成状況に併せて順次収穫をいたします。栽培体験のほか、家庭菜園実践者の方へのアドバイスも行います。

時 毎週日曜日 10:00～12:00
(12月～は隔週開催)
所 図書館交流プラザ・りぶら
ストリート広場南西の砂地部分
￥ 無料 ※収穫物のお持ち帰りは量に応じて有料(1種100円程度)
申 必要。直接または電話にて、市民活動センターへお申し込みください

※天候により催行を中止する場合があります
※最新情報はこちら
→<https://www.facebook.com/quruwa.community.garden/>



まちのミカタ

Litaracy 一りたらしいー



特集

一りたらしいー Litaracy 100号と りたのこれまでを振り返る

りたの機関紙として2006年10月に創刊された「りた便り」(月刊)は、2010年7月発行の46号より「Litaracy」(隔月刊)として生まれ変わり、今号で記念すべき100号となりました。

りたが設立された当時(2006年6月設立、NPO法人として認証されたのは同年9月)、日本は世界に先駆けて人口減少社会に突入し、少子高齢化、防犯、防災、福祉、環境といった多様化する社会問題に対して、行政のみで対応することの限界が指摘される一方で、必要な社会サービスの担い手として、市民や企業への期待が高まっていました。そこで、りたは「市民及び市民団体、企業が行う社会貢献活動を促進し、

市民・企業・行政が相互に参加や協力するまち育てを支援することで、岡崎市の協働型社会づくりを促進する(定款より)」中間支援組織として産声を上げました。以来、まち育てに関わる立場や行動原理の異なる人・団体の間に立ち、意見を整理・調整したり、それぞれの活動を支援することで、「市民が公共の担い手となること(新しい公共)」と、「自分たちのまちを自分たちで良くすること(市民自治)」を促進してきました。

今号では、これまでりたの活動やその意図を伝えてきた「一りたらしい」を手掛かりに、これまでのりたの活動を振り返ります。

「私」と「まち」を結ぶ、りた

「私」と「まち」を結ぶ=『新しい公共』の構築 [p.2]

私たち一人ひとりが、まちの当事者として関心を持ち、まちの将来像を描き、実現する主役として関われる場づくりを通じて、「私」と「まち」を結び、『新しい公共』を築きます。

1 地域の活力を蓄える [p.3]

その地域に何があるか、どんな人がいるのか、拠点の運営等を通じて日々情報を収集し、関係を築くことで地域の活力を蓄えています。

2 地域の資源を活かす [p.4]

地域に潜在する資源に光を当て、それまで見過ごされてきたまちの価値を見出し、広く共有し、誇りや愛着を持つ人、関わる人を増やすことで、地域の活力を高めます。

3 地域の課題を解決する [p.5]

地域課題を地域の人自らが把握し、共有することや、明確になった地域の課題を「対応可能なサイズに切り分ける」ことを支援し、地域でできる地域課題の解決を促進します。

『市民自治』の実現

①地域の活力を蓄え、②地域の資源を活かし、③地域の課題を解決することができる『市民自治』の実現を図ります。

「持続可能な社会」の実現

●PICK UP

■康生地区再活性化拠点基本計画ワークショップコーディネート業務(2004-05)

※まちの縁側育み隊として受託

■康生地区再活性化拠点市民サポーター活動支援業務(2005-06)

●りたの役割 ①ファシリテーション ⑥仕組みづくり ⑥担い手発掘

公共空間は、行政まかせの最たるもの一つです。公園、図書館、道路などがどんな場所になったらよいのか、かつてはそうした公共の計画に市民が意見やアイディアを伝える場はありませんでした。りたの前身の一つである「岡崎CDC研究会」は、⑥公共施設計画・デザインへの市民参加の対話の場づくりを提案し、りぶらの計画プロセスでそれが実現しました。①建設的な対話の場が成立するように、どのようなプロセスで、どのような参加者と、どのような切り口で話し合うべきかを考え、整理し、その地域ならではの、より創造的な意見や提案を引き出すのがりたの仕事です。

こうした対話の場から、⑥参加者に「自分たちの提案を行政にお任せするのではなく、自分たちで実現したい」という意識が生まれ、市民自らりぶらのソフトを提案・実現する「りぶらサポータークラブ(LSC)」の設立につながり、りぶらを起点としたまち歩きに誘う「りぶらぶらりMAP」の作成、りぶらにおける託児サービスを担う「りぶらっこ★ふあみりー」の設立、図書館の映像資料を有効活用する「シネマ・ド・りぶら」など、さまざまなサポーター活動が生まれています。市民の公共施設の計画から運営にいたる積極的な参加は、まさに「新しい公共」の形を体現していると言えるでしょう。

これらの取組みがきっかけとなり、市内の公共施設や計画づくりに市民参加の手法が用いられるようになっていきました。

りたの使命は、「持続可能な社会」につながるまち育てを進めること(設立趣意書より)です。まちが持続可能であるためには、暮らす人のまちへの愛着や関わりが必要不可欠と言えますが、いつからか私たちは、まちのことを行政頼み、人まかせにすることが当たり前になり、まちへの愛着を持ちづらく、まちとの関わりが希薄になってしましました。

そこで、りたは、自分の暮らすまちに関心を持つ機会をつくり、さまざまな形でまちに関わる場を設けたりすることで、「私」と「まち」を結びます(=『新しい公共』の構築)。そのことがさらにまちに関わる原動力となり、地域の活力が高まり、地域が主体となって地域資源を活かし、地域の課題を解決する仕組みをつくること(=市民自治)が、持続可能な社会の実現につながると考えています。

●その他の事例

- ・むらさきかん基本計画ワークショップコーディネート業務(2007-08)
- ・東岡崎駅北口にぎわい広場検討ワークショップ運営業務(2009)
- ・悠紀の里基本計画ワークショップコーディネート業務(2010-11)

など



●バックナンバーで見る、あの時



Litaracy95 | 2018.11

岡崎初の本格的な市民参加事業「りぶら」の10年とこれから

延べ1,000名超の市民が参加したりぶらの計画プロセスと成果を振り返り、これからの展望を示した。

9月～10月(報告)のりた

むらさきかん

9/8

むらさきかんまつり2019 ～東部のいいとこ！見つけまつり～



東部地域の市民と活動団体(49団体)との交流イベント。舞台発表や物販・体験ブースに加え、東部地域の課題に即した講演会や展示、屋外での木工品づくりなどのコーナーを設け、好評でした。
【2,521名参加】

まち育て推進チーム

9/15

QURUWA菜園 in りぶら



りぶらの南西にある広場を活用して、農と食について学ぶコミュニティ菜園と青空教室を暫定的に設置しました。野菜作りの体験を通じて、人々が集い、学びあうひとときが生まれました。
【14組32名参加、総来場者数約70名】

※活動の詳細・野菜づくり体験日についてはこちら
→<https://www.facebook.com/quruwa.community.garden/>

まち育て推進チーム

9/28

QURUWAピクニックトーク #1 @乙川ナイトマーケット



QURUWA戦略の啓発を目的として、屋外で気軽に参加できるトークイベントを開催。乙川河川敷でたき火を囲みながら、QURUWAエリアの楽しみ方をテーマに意見交換をしました。
【30名参加】

※QURUWAとは…

名鉄東岡崎駅や籠田公園、図書館交流プラザ・りぶら、岡崎公園、乙川など、中心市街地に点在する公共空間を結ぶ回遊動線のこと。そのエリアががつての岡崎城跡の「総曲輪(そうぐるわ)」と重なること、「Q」の字に見えることからQURUWAと名付けています。市民や来訪者が楽しむことができ、市内の他のエリアと繋がるまちを目指しています。(参考資料「市制よりおかざき(2019年10月号)」)

悠紀の里

10/1～20

第4回みんなのむつみ展



六ツ美をテーマにした写真、絵画、造形作品などを市民から募集し、地域の魅力を見つめ直すことを目的とした展示会。70点もの作品が集まり、多くの来館者に鑑賞いただきました。

やはぎかん

10/5

やはぎかん 防災講座 おやこのためのおいしい非常食をたべよう！



防災意識の向上を目的とした講座。非常食の試食はもちろん、市の防災課とコープあいちから職員を招き、災害用語や手軽な防災グッズについての講演会を実施しました。
【25名参加】

悠紀の里

10/6

ゆきファミリーパーク ～10/6おやこのきねん日～



子育て支援団体(16団体)との協働企画。手遊び体験のステージ発表や、育児雑貨の販売などが行われ、各団体の活動内容を具体的に知ってもらう機会となりました。
【257名参加】

まち育て推進チーム

10/14

QURUWAピクニックトーク #2 @籠田公園



第2回目は、リニューアルされた籠田公園で実施。あいにくの雨でしたが、屋根のあるデッキテラスを活用し、QURUWAエリアでやりたいことについて話し合いました。
【49名参加】

市民活動支援チーム

10/20

西三河初！社会課題に向き合う活動団体のための「NPO資金調達まるわかりセミナー」

社会課題解決のために活動しているNPOや市民活動団体、ボランティア団体の支援を目的とした講座。助成団体と採択団体のそれぞれの視点による事例発表や、各助成金の特徴・審査基準などについての学びの場となりました。
【47名参加】

※主催はNPO法人地域の未来・志援センター、一般財団法人セブン-イレブン記念財団。りたは企画に共催しました。

●りた便り～Litaracyの変遷 *バックナンバーはホームページ(www.okazaki-lita.com)でご覧いただけます。



▲りた便り01 [2006年10月発行]

NPO法人の認可が下りた翌月に発行した記念すべき創刊号。まちづくりへの参画を促す情報の掲載など、りたの活動や理念を伝えるためにコミュニケーションを大切にする姿勢はこの頃から確立されていました。



▲りた便り16 [2008年1月発行]

「りた便り」の題字が変更されマイナーチェンジ。誌面から、当時第1回なごみん横丁、東部地域交流センターの基本計画ワークショップ、りぶら開館(2008年11月)に向けた準備が行われていることがうかがえます。



▲Litaracy46 [2010年7月発行]

「りた便り」から「Litaracy:りたらしい」へ。A2判4つ折りにサイズアップし、隔月刊にリニューアル。Litaracyとは、「読み書き能力」を意味する英単語[literacy]と[りたらしい]をかけあわせた造語。



▲Litaracy56 [2012年3月発行]

A2判からA3判2つ折りにマイナーチェンジ。メインコンテンツは、まちづくりに携わる人々の動機とノウハウに迫る「まちづくりのwhyとhow」から、りたスタッフの暮らしの気づきとこだわりを伝える「生活芸述」へ。



▲Litaracy69 [2014年7月発行]

サイズは変わらず、モノクロからカラー判へ。コンテンツは、りたの事業を取り上げて紹介する「メイン特集」と、多岐にわたるりたの事業を網羅的に紹介する「報告」と「告知」のダイジェスト欄に変更。



▲Litaracy81 [2016年7月発行]

りたのロゴマークのリニューアルに伴い、Litaracy誌面のデザインもマイナーチェンジ。ちなみに新旧ロゴ共に「りた」とも「Lita」とも読めるようにデザインされているって知つました？

●りたの役割 Index ※p.3-5のりたの役割を示すキーワードについて解説

①ファシリテーション

さまざまな意見や関心を持つ人々が参加する会議や対話の場において、共通の目的意識や情報を整理し、話し合う内容を順序立てて組み立てる「プロセスデザイン」、意見を引き出しやすくする「プログラムデザイン」等を行い、より建設的かつ創造的な意見交換を促進すること。

②マッチング

幅広いネットワークを活用し、社会的なニーズ(こんなことを必要としている、してほしい)とシーズ(こんなことをしたい)をつなぎ、協働の機会を創出すること。

③相談・情報提供

市民活動センター窓口等で市民活動に関する相談を受けたり、地域情報や市民活動に関するアーカイブ(地域交流センター情報誌、岡崎まちものがたり、おかざき市民活動情報ひろばなど)から情報を提供したり、関連する市民団体や支援機関、行政、専門家等につなぐこと。

④学習機会の提供

講座の企画・運営、専門家派遣等を通じて、市民活動、地域活動、まちづくりに関する学習機会や、意外と知られていない岡崎のまちを知る機会を提供すること。

⑤仕組みづくり

地域の資源と課題から、誰が、何のために、何を、いつ、どうやってやるのかを整理し、地域が主体的に取り組めるような持続可能な体制や方法を模索・提案・構築すること。

⑥担い手発掘

10年以上の活動で培われた各地域のキーマンや多様なテーマの活動団体とのネットワーク、関心の惹く呼びかけの切り口やデザインの工夫などを用いて、意識啓発や担い手発掘・育成をすること。

⑦調査・研究

まちづくりの方向性や仕組みづくりを検討したり、関わる人の動機づけのために、住民の意識を把握したり、地域情報や先進事例を収集し、分析したりすること。

1 地域の活力を蓄える



●りたの役割 ②マッチング ③相談・情報提供 ④学習機会の提供 ⑥担い手発掘

今年で12回目となった「なごみん横丁」は、①なごみん全館を一つのまちに見立て、子どもたちが住民となり、公共の仕事をしたり、自分で起業をしたりしてお金を稼ぎ、税金を納め、選挙で町長や議員を選び、遊びながらまちづくりを体験する「子どものまち」です。②地元の商店街や教育機関と連携し、4日間で1,800人以上の子どもたちと180人余りのボランティアが集まり、地域ぐるみで未来の地域を担う子どもたちの創造的教育の場および多世代のボランティアの受け皿として定着しています。

市民活動センターはじめ6つの拠点施設においては、社会貢献したい人の入口として、②ボランティアをしたい人と、活動を支援してほしい市民団体をマッチングする「まちびとバンク」の仕組みを構築し、年間およそ100件の依頼件数、3,000件超のマッチングにより、市民活動・地域活動に必要なマンパワーを補う支援を行っています。

また、各センターでは③地域情報にアンテナを張り、日々の情報収集や情報誌および市民活動団体向け情報の編集・発行を通じて、地域情報を蓄積すると共に、地域活動・市民活動に取り組む方々との関係づくりに勤しんでいます。そうしたネットワークを活かし、地縁組織や教育機関と連携して、世代間の交流や、地域活動・市民活動の啓発に力を入れています。

「まち育てスクール」では、④歴史・文化・産業、自然、地域活動といった資源に光を当て、まち歩きを通じてその魅力を伝える担い手の育成を行うと共に、⑤地域ならではの学習機会を提供しています。

「岡崎まち育てフェスタ(通称:まちフェス)」では、⑥優れた市民活動・公益活動や市民協働事例を紹介したり、⑦協働意欲のある市民団体、企業、教育機関を募りマッチングを図ったりするなど、地域づくりの活力を増幅する場づくりを行っています。

こうして蓄えられた活力は、地域の資源を活かしたり、課題を解決する原動力となります。

りたは、岡崎市が市内5か所に設置した市民活動や地域活動の拠点「地域交流センター」と図書館交流プラザの「市民活動センター」を運営することで、自ら公共の担い手となる実践を行っています。

地域活動の担い手不足が深刻化する一方で、誰かの役に立ちたい人もいます。そこでりたは、拠点施設の運営を通じて、施設利用者のみならず、地縁組織や教育機関等と良好な関係を築き、地域づくりの担い手の発掘や地域情報の収集・発信を行っています。

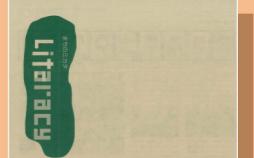
こうした拠点に蓄積された社会的ネットワークが、地域づくりの活力の源となっています。

●その他の事例

・よりなん(2006-)、やはぎかん(2008-)、むらさきかん(2012-)、悠紀の里(2014-)指定管理業務

・りぶら市民活動センター運営業務(2008-)など

●バックナンバーで見る、あの時



▲Litaracy53 | 2011.7

子どもたちが「なごみん横丁」で大人と一緒に育つ横丁と大人たち

なごみん横丁の仕組みや当日の雰囲気、立ち上げ時から携わるスタッフと子どもたちの想いに迫る特集号。

2 地域の資源を活かす

●PICK UP

■乙川リバーフロント地区かわまちづくり支援業務(2016-)
—おとがわ！ンダーランド、殿橋テラスの運営など



「地域に魅力がない」「担い手がない」という課題はよく耳にしますが、私たちの身の回りには、その場所ならではの環境や文化、風習があり、それらを支える人や活動、場所があります。

地元の人しか知らないような魅力もあれば、地元の人が気づかず外から称賛されるような魅力もあります。

りたは、地域に潜在するそうした活用されていない資源に光を当て、それまで見過ごされてきたまちの価値を見出し、広く共有し、誇りや愛着を持つ人、関わる人を増やすことで、地域の活力を高めるまちづくりを実践しています。

●その他の事例

- ・乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業(おとがわプロジェクト)(2015-)
- ・岡崎百景選定事業(2014-2016)
- ・公園利活用ニーズ調査(2016-)など

●バックナンバーで見る、あの時



▲Litaracy82 | 2016.9 水辺を使いこなせ！「おとがわ！ンダーランド」

乙川の社会実験と全国規模の水辺活用を紹介し、市民の積極的な公共空間活用を通じた魅力づくりの展望を伝えた。

●りたの役割 ①ファシリテーション ⑤仕組みづくり ⑥担い手発掘 ⑦調査・研究

公園、道路、河川、公共施設などの公共空間は、必ずしも有効に活用されているとは言えない地域資源の一つと言えます。その背景には、使うためのルールがない、あっても周知されていない、「使いたい」と思っている人がいないなどの理由があります。

乙川河川敷は、これまで桜まつりや花火大会以外はあまり使われていませんでしたが、国「かわまちづくり支援制度」に登録され規制緩和されたことにより、民間による商業活動などが可能になりました。

りたは⑥水辺活用の専門家(ハートビートプラン)と共に、どんな使いができるのか、どんな使い方が適しているのか、これまで培ってきたネットワークを活かして水辺活用の担い手候補となりそうな市民団体や事業者に働きかけ、⑤乙川河川敷を魅力的な場所に変えていく社会実験「おとがわ！ンダーランド」を企画・運営しました。

乙川河川敷を活用するにあたり、通り過ぎるだけだった水辺に立ち止まつたり、かわまちづくりの取り組みを知つてもらうための水辺活用の拠点として、交通量が多く、岡崎城と乙川を望む絶好の視点場でもある殿橋のたもとに、仮設の「殿橋テラス」を設置しようという企画が立ち上りました。前例のない試みに、河川や道路の占用許可申請や、警察、保健所、事業者との調整など困難を極めましたが、関係機関との粘り強い協議やそのために必要な資料の作成など、市と二人三脚で克服し実現。現在では、全国から注目を浴びる存在となっています。

4年間の社会実験を通じて、⑤乙川に関わった人々やその活動から、それまであまり意識されてこなかった、「山(水源地)とまちをつなぎ、恵みを運ぶ」という乙川の価値や、地域に密着しているからこそ発見できる四季折々の魅力に触れ、発信・共有を図っています。

将来的には、特別な催しや仕掛けがなくても、市民自らが公共空間の楽しみ方を見出したり、つくり出し、そうした光景がその場所の魅力になっていくことを目指しています。

3 地域の課題を解決する



●PICK UP

■愛知県「新しい公共支援事業」(2012)
—松應寺横丁にぎわい市の開催、空き家活用、高齢者支援など

少子高齢化、空き家の増加、地域活動の担い手減少など、さまざまな地域課題が深刻になってきていますが、そもそも自分たちの暮らすまちにどんな課題があるのか、また、こうした課題にどのように対処すればよいのか、明快な答えや方程式がある訳ではありません。

そこで、地域の課題を地域の人自らが把握し、共有することや、明確になった地域の課題を“対応可能なサイズに切り分ける”ことを支援し、地域でできる地域課題の解決を促進しています。

●その他の事例

- ・生活支援体制整備事業(第1層): 地域包括ケア支援(2018-)
- ・地区防災計画策定支援業務(2015-16)

など

●バックナンバーで見る、あの時



▲Litaracy71 | 2014.11 松應寺横丁まちづくり協議会「まちづくり賞」受賞

日本建築士会連合会の「まちづくり賞」受賞を記念して、松應寺横丁の空き家活用と高齢者支援の取り組みを紹介した。